

## 自由民主党衆議院議員【埼玉 3 区（越谷市・草加市）】

先端技術がもたらす、これからの日本の繁栄  
宇宙コラム／日本の宇宙開発の課題

※きかわだひとし後援会 入会のご案内など

## きかわだステーション



第 27 号

きかわだひとしFBはこちら！友達募集中！↑↑↑  
衆議院議員黄川田仁志事務所発行 電話 048-933-0591

地域の皆様と共に！

自立と誇りある  
日本をつくります

## 先端技術がもたらす、これからの日本の繁栄

自由民主党衆議院議員の黄川田仁志です。先月の 1 月 21 日に、茨城県つくば市にある筑波宇宙センターを訪れました。なんと、その日、草加市のラジオ体操連盟が、宇宙ステーションにいる若田光一さんと交信することになっていました。私は、地元選出の国会議員として、また自民党宇宙総合戦略小委員会の幹事として、一緒に参加させていただきました。草加市と宇宙がつながるといふ貴重な体験ができ、とても感動しました。

その交信イベントの後で、古川聡宇宙飛行士と会談することができました。古川さんから、「日本は今後とも、宇宙開発事業に積極的に参加し、国際的に注目される世界最高の科学技術力のある国を目指してほしい」と、政治に対するリクエストをいただきました。私も、古川さんの意見に賛同します。

日本はフロンティアを目指さなければなりません。世界のどの国もやっていないことに挑戦する。私たち日本人には、その力があるし、その力の結集が、日本に繁栄をもたらします。私の専門であります海洋、宇宙、バイオ、

IT、原子力などの先端技術において、世界をリードすること。それが、日本人としての誇りになりますし、世界から尊敬を集めることにもつながります。このような先端技術は、うかうかしていると、他の国にすぐに追い抜かされてしまいます。特に、宇宙分野では、中国とインドの成長が著しいです。このままでは、追いつかれ、追い越されてしまいます。科学技術立国・日本にとって由々しき事態です。だからこそ、日本は国を挙げて、先端技術に挑戦できる仕組みを構築しなければなりません。そこで、今号のきかわだステーションでは、宇宙開発に注目して、先端技術振興における日本の課題について、考えてみたいと思います。

平成 26 年 2 月 吉日 自由民主党衆議院議員 黄川田仁志



古川聡宇宙飛行士の目はキラキラしていました

## 宇宙飛行士のお二人のお話の中から印象に残ったものをご紹介します

## ◆若田光一さん：『困難に打ち勝つためのキーワードは、「夢」、「探究心」、「思いやり』』

「夢」は目標を与え、それに向かって頑張ることができるということ。「探究心」は問題が何かを諦めずに見つけること。「思いやり」は物事を仲間と協力し合って成し遂げられるということ。その中で、宇宙の仕事をしていて特に大切なことは、仲間の夢や目標が実現するよう助けてあげることだそうです。

## ◆古川聡さん：『地球全部が自分の故郷になった！』

宇宙に出て地球を眺めて、地球が自分の帰るべき故郷だと感じた。宇宙から見る地球には国境がないというのは間違いで、インドとパキスタンの国境は、宇宙からはっきり見える。国境を警備する軍の明かりが国境線に沿って見えたとき、とても悲しくなったそうです。

宇宙コラム

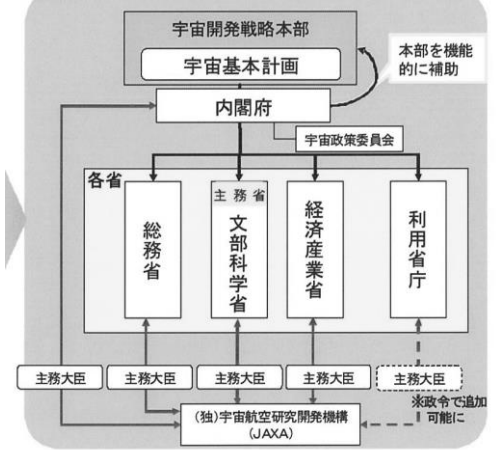


# ～日本の宇宙開発の課題～

## 課題その1：推進体制

日本の宇宙開発の推進体制は右図（科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 宇宙開発利用部会 資料から抜粋）の通りです。宇宙開発の司令塔として、内閣府宇宙推進室が設けられましたが、とても複雑な組織になってしまいました。独自の予算権限を持つ内閣府をトップに据えたことで、司令塔の役割だけでなく、自ら新しい事業をつくってしまい、文部科学省や経済産業省と予算の取り合いになっています。本来、このような推進体制をつくった目的は、日本の宇宙開発推進のために、行政の縦割りを排し、省庁間の協力体制を築くためでしたが、うまく機能していません。体制自体は最近見直されたばかりなので、組織そのものをどうこうするのではなく、意識をもった政治家がリーダーシップを発揮し、各省庁間をつなぐ役割を果たす必要があります。

【新体制】



主務大臣：法人の業務を所管する大臣。複数の場合がある  
主務省：法人全体に係る最終的な監督責任を負う府省

## 課題その2：中国の台頭

中国が物凄いスピードで宇宙開発を進めています。2003年に中国単独で友人宇宙飛行に成功しました。これは、ロシア、米国に次いで、世界で3番目です。2007年には、人工衛星破壊実験に成功しています。このことにより、日本は、安全保障の面で、中国が人工衛星破壊技術とその戦力を完成させたときのことを想定する必要が出てきました。万が一、日本の情報衛星が破壊されれば、大変な事態となります。このような事態に対応するために、日本は、3日以内に打ち上げることができる小型ロケットと小型バックアップ衛星の開発を急がねばなりません。

## 課題その3：日米衛星調達合意

1990年に取り交わされた日米衛星調達合意によって、日本は、研究目的以外の衛星は国際入札によって発注しなければならないことになっています。これは、80年代の日米防衛摩擦解消が目的でした。しかし、この合意によって、日本は国産衛星が激減し、宇宙産業の衰退と開発の遅延を招くことになりました。合意前は、気象衛星「ひまわり」、NHKのBS放送衛星シリーズ等が国内調達されていましたが、現在は、外国に入札で負けてしまい、外国メーカーに宇宙開発の仕事を奪われています。2020年までに打ち上げられる予定の国産衛星は、たった2機しかありません。これでは宇宙開発に関わる国内産業はやる気を失います。政治が積極的に日米衛星調達合意を見直す必要があります。

## 課題その4：漁業権

現在の漁業権は、戦後、GHQにより日本の内海並びに領海の隅々まで設定されました。海域利用に関する権利者を多数存在させ、容易に軍港を造らせないためと言われていました。この漁業権が、現在、海洋開発のみならず、宇宙開発の妨げになっているのです。ようやく日本は、2010年から、ロケットの通年発射が行われるようになりました。しかし、現在でも漁業者との打ち上げ計画の事前協議が行われ、年間の発射期間、発射機数も制限されています。また、漁業対策費という補償を十数億円払わなければなりません。確かに、ロケットから落下物が落ちてくる可能性のある海域において、一定期間、漁業や通航が制限されますが、このような補償があるのは日本だけです。漁業権や漁業補償について見直す必要がある他、ロケットの空中発射など、漁業への影響がない新技術開発を推進する必要があります。

～一緒に日本の政治を考え、行動してみませんか？～

## きかわだひとし後援会 入会のご案内

きかわだひとしの政治理念及び活動に共感し、応援していただける方を募集しております。越谷市または草加市にお住まいの方なら、どなたでもご入会いただけます。**入会金・年会費は不要**です。会員の皆様には、活動報告等をお届けします。入会を希望される方は、恐れ入りますが、下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。



一緒に「自立」と「誇り」ある日本を創ろう！ **きかわだひとし後援会**

〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷 2-8-31 Tel 048-962-8005 Fax 048-962-7999

Mail : [info@kikawadahitoshi.jp](mailto:info@kikawadahitoshi.jp) HP : <http://www.kikawadahitoshi.jp>

Blog : <http://ameblo.jp/kikawadahitoshi/> (Ameba 政治家ブログ)

ボランティア大歓迎

きかわだひとしの活動をお手伝いいただける方を募集！

カンパ募集しております！

サラリーマン出身のきかわだひとしの政治活動拡大にご協力を！

**きかわだひとし**とは？…自民党衆議院議員。東京理科大学、米州-ランド大学大学院修了。松下政経塾出身。元環境コンサルタント。昭和45年生まれ。趣味は剣道、空手、野球、落語。現在、外務、法務、震災復興特別各委員会所属。自民党青年局長。